

## 生活文化産業学

(第 1・3 木曜日 午後 1 4 時～／成徳学舎)

担当：大倉 朗寛

市民大学院が無事開講されましたことを心よりお慶び申し上げます。そして、東日本で発生しました大震災に被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。

大震災の発生後、テレビなどを通じて次々と言葉を失うような光景や情報が発信され、日本国内では全国的に祭事やイベントの中止など、自粛ムードが漂っています。しかしながら、いつまでも自粛しては経済も冷え込み、結果として善くない方向へミスリードされてしまうことを懸念しています。今まで以上に地域振興の重要性について考え直し、一人ひとりが自立して積極的に消費活動を行ってゆかなければ、真に震災復興のシナリオを描いてゆくことはできないと考えています。

また、今まで以上に「まちづくり」に対して注目と期待が高まってきていると強く感じています。これからの「まちづくり」は、幸いにして大震災から免れ、自立した市民一人ひとりが、独創性をいかに発揮し、国際的にも協調しながら活動してゆけるかに懸っていると考えています。

さて、これまで経済の活性化を考えると、「国際競争力」や「イノベーション」というキーワードが重要視されてきましたが、文字通りに、国際的に競争する力量を身につけようと考えたとき、どこの国でも作れるようなモノを安値で売って人件費を新興国並みに引き下げるか、あるいは他国では創ることができない高度な技術やノウハウを搭載した高付加価値商品を高値で売って人件費を維持してゆくか、という 2 つの方向しか選択肢がなくなってきたのではと考えています。

その結果、たとえ後者の場合で成功したとしても、それは少数に留まり、やはり国全体としては前者の競争を強いられ、新興国並みへ生活水準が引き下げられることを余儀なくされているのが現状と考えています。

したがって、国際的に競争する力量を身につける「国際競争力」という考え方というよりは、国際的に協調しながらも独創性を発揮する力量を身につける「国際独創力」という考え方への方向転換が重要ではないかと私は考えています。

また、「イノベーション」という考え方で表面的な部分のみを刷新するのではなく、根本的な部分から創り直してゆく「クリエーション」という考え方への方向転換も合わせて重要ではないかと私は考えています。

これらの考え方を実現するためには、日本各地に固有の地域資源に対して視点を変えて価値を見出し、有効活用するということが必要不可欠と考えています。そのことによって新たな発想の商品を永続的に創出し続けることができ、企業が永続的に利益を上げ続けることによって地域への利益還元を通じて地域に根付き、各地域に固有の産業が永続的に振興されると考えています。

この日本各地に固有の地域資源こそが、日本各地に伝わる生活文化の基盤となっていて、その生活文化そのものをまちづくりの基幹産業やシンボルとして捉え、振興してゆくことが強く求められていると思われまます。

たとえば、先月、熊本県の五木村から五家荘を經由して宮崎県の椎葉村、そして諸塚村を訪ねさせて頂いた際、まさしく椎葉村のシンボルとなっている鶴富屋敷を訪ねることができましたが、そこには平安時代末期に、まさしく犬猿の仲であった源氏と平家の間に子孫が生まれ、その後、様々な苦境を乗り越え、限りある寿命を繋いでゆきながら、その家系の方々が地域リーダーとして椎葉村の振興にご献身され、現在は 3 2 代目の方が那須家の主人として、その屋敷を守られています。

今、日本は、19 世紀の明治維新、20 世紀の第二次大戦の敗戦、そして 21 世紀の大震災と、今回で三度目となる時代の大変動に直面していますが、そのような時代の大変動を 12 世紀から乗り切ってこられた椎葉村の那須家のように、未来永劫に寿命を繋いでゆきながら、地域のシンボルを創って守り続け、地域を永続的に振興してゆくことの御苦労に感銘を受けざるを得ませんでした。

その生活文化産業を、これから担ってゆかれるのが地域リーダーであり、市民大学院で学んだ方々は、各地域の情報を的確に収集し、その情報伝達ルートを整備しながら、情報共有ネットワークを形成し、地域リーダーとしてご活躍されてゆくと考えています。

地域リーダーは、以下の 3 種の情報をバランスよく得ながら、学びと交流の「場」で、様々な立場の方々と相互学習をすすめてゆくことが求められると考えており、市民大学院は、地域リーダーを目指す方々にとっては、かけがえのない学びと交流の「場」になると私は考えています。

①ローカル情報（それぞれの地域でしか知り得ない情報）

②学術情報

③グローバル情報（ネットでキャッチできる情報）

→誰でもいつでもキャッチできますが、必要な情報を必要なときに必要なだけ得るためには、ある程度の知識や経験、操作、スキル、ノウハウなどが必要となります

また、市民大学院の公式ホームページは、Yahoo!検索や Google 検索で「市民大学院」と

検索すると 1 番目に表示されます。このように SEO 対策が施されたホームページというネット上の「場」を通じて、講師の方は講義内容を通じて、より広範囲に情報発信して頂くことができ、学生の方は講師の方と研究テーマおよび地域に関する情報の共有および意見交換ができますので、教える立場と学ぶ立場の両方からお互いに学び合うことができる相互学習の「場」になると考えています。

それぞれの立場で自分の意見を主張し合って無益かつ非生産的な論争を続けるのではなく、それぞれの立場に自分を置き換えてお互いに学び合うことで、地域や国としての新たな方向性を見出し、大学人あるいは行政人、企業人として、一人ひとりが経済的に自立しながら、精神的かつ創造的に自立して、自由に活動の「場」を広げてゆかれ、それらの活動を各地域、各組織、各専門分野ごとに集積し、再構築してゆくことによって、今回の大震災による地域や国の危機的状況を乗り越えてゆく原動力になればと考えています。

以上が、生活文化産業学の講義を担当させて頂くにあたって、今現在、私が考えていることとなります。

第 1・3 木曜日の午後 2 時から開催される「生活文化産業学」を、受講されたい方は、ご自身が行いたい研究テーマおよび地域についてキーワード群（研究テーマのキーワード 5 個、地域のキーワード 2 個）で知らせてください。知らせて頂いたキーワード群に関連する情報を、それぞれ受講者と以下の 5 種の方法で共有させていただきます。

- ①メール通知
- ②PDF 形式（パソコンや iPad から閲覧）
- ③FAX 送信
- ④ネットプリント（セブンイレブンで印刷可能：有料）
- ⑤リーフレット（手渡し、または郵送）

そのキーワード群に関連する生活文化産業の現状を把握し、その将来を探究してゆくために必要な項目を 8 回に分けて講義形式で伝達させていただきます。

1. 生活文化産業学とは
2. 生活文化産業における情報通信技術の現状と変遷
3. リスクマネジメントの海外事例から考察する生活文化産業
4. 生活文化産業において活用されるハードウェア
5. 生活文化産業において活用されるソフトウェア
6. 生活文化産業における情報発信の強化
7. 生活文化産業における情報管理の整備
8. 生活文化産業における情報収集の効率化